

ルム)の出席報告
 3. 次々回の IISI 総会(於東京)のパネルディスカッションテーマに関する討議
 4. 調査委員会(スペシャルスタディ)での新規テーマに関する討議
 5. 技術交流セッションでのテーマについて討議
 6. IISI 歩留 WG ミーティングの概要報告

・第 8 回旧陸海軍鉄鋼技術調査委員会

開催日:8月20日

出席者:堀川委員長,ほか8名.

1. 議事録の確認

2. 報告書のとりまとめについて
 3. 報告書送付先及び購入者名簿
 4. 今後の推進についての御意見
 5. その他,歴史年表,報告書標題について等

日本圧力容器研究会議

・第 66 回 JPVRC 圧力容器用鋼材専門委員会

開催日:7月22日

出席者:平委員長,ほか9名.

1. 前回議事録確認

2. JPVRC 運営委員会報告
 3. 新規テーマに関する詳細提案と討議
 ・第 51 回 JPVRC 非破壊試験専門委員会

開催日:7月23日

出席者:川本委員長,ほか8名.

1. 前回議事録確認
 2. JPVRC 運営委員会報告
 3. 「極厚鋼板溶接部欠陥の超音波探傷精度に及ぼす集束超音波ビームの効果」中間報告書について
 4. ASME Appendix VIII について

☆☆☆☆☆☆☆☆

//////////////////////////////////// 原稿募集 ////////////////////////////////////// 「鉄と鋼」特集号 //////////////////////////////////////

製鉄プロセスにおける現象とモデル化

原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日(金) 締切日厳守
 締切日以降の投稿原稿は受け付けませんのでご注意下さい

平成 4 年 7 月号(第 78 年第 7 号)に上記特集号を企画しております。ここ数年,国内の好景気に支えられ,我が国の粗鋼生産量も 1 億 t を超える高生産が続いております。しかし,一方では,劣質資源の活用,省エネルギーも含めた CO₂ 削減技術等,将来型プロセスの開発に期待がよせられています。

最近の製鉄プロセスにおける研究状況を概観しますと,原料分野においては,焼結機操業の歩留り向上,低品質原料の使用可能な焼結法や新塊成化法の開発,コークスの分野では,乾留反応の制御法,一般炭の使用技術,高炉においては,新装入物分布制御法,微粉炭多量吹込み,AI や数学的モデルによる操業管理などに長足の進歩がみられます。また,基礎的研究としては,シンターケーキ構造の研究,高炉下部の移動現象論的研究,新プロセスに関連して,熔融還元法や酸素高炉法,成型炭製造技術など大型のプロセス開発の研究も実施されています。

本特集号においては原料,コークス,高炉製鉄法,ならびに,開発が進められている将来の製鉄技術に関連して基礎科学的,および,応用技術的研究を幅広く募集いたします。論文等多数の御投稿をお待ちしております。

1. 原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日(金)
2. 発行 「鉄と鋼」Vol. 78 No. 7 (平成 4 年 7 月号)
3. 原稿枚数 論文刷り上がり 8 ページ以内(表,図,写真を含めて本会原稿用紙 40 枚以内)
 (注)・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。
 ・投稿された論文は和文会誌分科会において審査されます。
4. 問合せ・原稿送付先
 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
 (社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 和文誌特集号係(担当・坂井) 電話 03-3279-6021(代)
 (注) 投稿時,原稿表紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい。